

事業名：千葉県通学路推進事業（学校安全総合支援事業）

モデル地域：浦安市堀江中学校区

拠点校：浦安市立南小学校

所轄教育委員会：浦安市教育委員会

電話番号：047-351-0111

1 モデル地域の現状

○モデル地域名：浦安市堀江中学校区

○学校数：幼稚園 2園 小学校 2校
中学校 1校

○モデル地域の安全上の課題：

堀江中学校区は、交通量の多い道路や狭い路地が混在している地域である。住宅街でも市の巡回バスが走り、狭い道でも自動車や自転車の往来が激しく、交通安全への取組が必要な地域である。とりわけ、南小学校区は浦安駅への抜け道として使われる道路もあり、特に交通事故が心配される。

2 モデル地域の事業目標

児童の交通安全に対する意識を高め、自分の命や安全を自ら守ることを目指す。

拠点校を中心に、交通安全に係る取組を行い、中学校区内の他校に実践を普及させるとともに、市内の交通安全を推進する。また、地域や関係機関とともに通学路等に潜む危険な箇所を点検、確認することにより、登下校時に安全な行動ができるような学習に取り組む。

3 取組の概要

(1) 実施概要

実施時期	計画事項	参加者
4月	○校内会議（安全計画や年間指導計画について）	学校
6月	○拠点校会議（臨時休業や感染症	市教委・学校

	対策を踏まえた計画案の修正)	
7月	○通学路合同点検	市教委・学校・専門家
8月	○交通安全講演会（中央大・稲垣氏）幼保小中連携	学校・中核教員・准教授・市教委
9月	○校長会議での情報共有 ○1年交通安全教室	市教委・市内校長 学校・警察署・市関係課
10月	○4年安全マップづくり ○浦安市通学路検討会（会議及び点検箇所立ち合い）	学校 市教委・学校・市関係課・警察署
11月	○スケアードストリート交通安全教室 ○3年自転車交通安全教室	学校・教育事務所・市教委・中核教員 学校・警察署・市関係課
12月	○実践委員会（書面会議報告） ○教育情報誌への情報提供	学校・専門家・教育事務所・市教委・保護者

4 具体的な取組

(1) 安全教育の充実に関する取り組み

ア 安全教育の充実に関する取組

① 実践委員会における情報共有

南小での実践内容を随時実践委員に情報提供した。12月には報告書を取りまとめ、書面による実践委員会を実施し、共有を図った。

＜実践委員＞

中央大学准教授、葛南教育事務所指導主事、浦安市保健体育安全課、南小学校教頭、南小学校安全主任、舞浜小学校安全主任、堀江中学校安全主任、みなみ認定こども園主任、堀江認定こども園主任、南小学校PTA会長

② スケアードストレイト交通安全教室の開催

拠点校である南小学校を会場に、スケアードストレイト交通安全教室を実施し、モデル地域内の中核教員に公開した。

日時：令和2年11月10日

内容：交通事故の再現や交通上の危険行為についての説明。

参加者：南小学校5・6年児童、モデル地域内中核教員等

参加人数：350人



③ 講演会の開催

モデル地域内において、専門家による交通安全についての講演会を実施。

日時：令和2年8月24日

テーマ：「子どもの道路横断の判断能力とは？～交通安全教育における家庭・地域との連携～」

内容：○子どもの交通安全の現状について○子どもの事故の発生状況について○交通安全対策・教育の現状について○子どもの道路横断の判断能力○正しい判断能力を身に付けさせるために○学校・家庭・地域の連携と協働の重要性

参加者：南小学校教員、モデル地域内中核教員等、市教委

参加人数：70人

④ 通学路合同点検の実施

拠点校である南小学校において、専門家を招いて通学路点検を行った。

日時：令和2年7月27日

内容：○通学路上の危険が予想される箇所の洗い出し○歩道の状態や見通しの確認○交

通量や法定表示の確認

参加者：中央大学准教授、南小学校教頭、南小学校安全主任、市教委



イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

- ① 市内全ての学校を対象に交通安全教育に関するアンケート調査を実施した。
- ② 浦安市の成果指標
ア e-ラーニングを活用した交通安全教育を実施している学校の割合は、事業実施前と比較し14校増加し、45%となった。
イ 地域や関係機関とともに通学路の合同点検を実施している学校の割合は、事業実施前と比較し8校増加し、93%となった。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に 関する取組

市道路関係課や地元警察署と連携した通学路検討会を実施した。モデル地域内を中心とした通学路の安全対策について協議し、実地点検を行った。



(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

e-ラーニング教材「教職員のための学校安全 e-ラーニング」について周知し、自己研修を推奨した。

(4) その他の取組について

① 地域安全マップづくり

拠点校において、通学路を含む学校周辺の安全マップを作成した。

日時：令和2年10月～12月

実施学年：4年生

教科：総合的な学習の時間

内容：自分たちの通学路について理解を深めさせ、自分の命は自分で守ることができるように指導した。他学年への発表の機会を持ち、全校児童の安全意識を高めた。



② ホームページを活用した啓発

拠点校において、学校ホームページに交通安全に関する取組を掲載し、保護者や地域の教員等への啓発を行った。



会議や研修、公開等を進める必要がある。

- 交通安全意識のさらなる定着のためには、今年度の拠点校での実践を市内に広げ、計画的・継続的に実施していく必要がある。

5 取組の成果と課題

【成果】

- 学年の発達段階に応じた交通安全教育を実施することにより、児童生徒の交通安全についての知識や危機回避能力が向上した。
- 講演会の実施により、交通安全の専門的な知見に触れ、教員の交通安全教育に対する意識が高まった。
- 同じ中学校区にある、こども園（2園）・小学校（2校）・中学校（1校）が情報を共有することで、地域の通学路事情に関する共通理解につながった。

【課題】

- 新型コロナウイルス感染症のため、当初の計画を大幅に変更しなければならなかった。今後はオンラインを活用した